

モンゴル 障害児のための教育改善プロジェクトフェーズ2 ニュースレター

Topics

- STARTフェーズ2第2期が始まりました!
- 創意工夫で頑張る支部委員会
- 幼稚園版 個別教育計画作成
- 気になる子どもの実態把握
- モニタリング対象校の好事例を紹介します

2022年12月
第3号



ニュースレター第3号をご覧いただきありがとうございます!今回は、支部委員会メンバー、幼稚園や学校の先生方の日々の活動のヒントとなるような情報を中心に掲載しました。

STARTフェーズ2、第2期が始まりました!

2022年8月より、STARTフェーズ2の第2期が始まりました。

第1期では、ウランバートル市内を中心にインクルーシブ教育の普及に取り組んできましたが、第2期では、全国にその活動を広げることを目指しています。

プロジェクトでは、モンゴルの各地域で中核となって活動してくれる中核県を5県選定しました。また、地方の幼稚園・学校のモデルとなるモニタリング対象園・校も各中核県に2園・2校選定し、インクルーシブ教育の推進に取り組んでいます。ウランバートルの専門家とともに、中核県への訪問モニタリングや教員研修等を実施していますので、活動の様子や好事例をニュースレターやFacebookを通じて発信していきます。



(上) 中核5県
(左) モニタリングの様子



創意工夫で頑張る支部委員会

労働・社会保障省とSTARTプロジェクトは、全国の支部委員会に対し、就学支援会議の開催、定例相談会での決定事項のフォローアップ、支部委員会の活動に対する区役所・県庁からの支援の状況、インクルーシブ教育を推進する仕組みの有無に関するアンケート調査を実施しました。2022年11月までに14の区と県から回答がありました。今回のニュースレターでは、他の支部委員会にも参考になると考える興味深い回答を紹介いたします。

■「支部委員会が出した就学決定が実際の就学につながったかモニタリングをしていますか?」という質問に対して、4区県が「家庭を訪問または電話している」、9区県が「幼稚園・学校を訪問または電話して確認している」と回答しています。また、「手当支給の期間を短く設定して次回の定例相談会で確認している」という支部委員会も9区県ありました。

■「区長/県知事と幼稚園、学校間の契約に、インクルーシブ教育を促進する内容が入っていますか?」と尋ねたところ、13の区県から「障害児の入園・入学を拒まないという条項を含めている」等と回答がありました。

ドルノド県では、2016年から「障害者の発達・保護プログラム」が実施されており、支部委員会の活動もその中に位置づけられていることから、毎年1,000,000MNTの予算措置、定例相談会用の部屋も提供されています。県知事と学校、幼稚園の契約には「障害児の入園、入学を拒まない」が含まれており、支部委員会は就学決定が実際の就学につながったか電話等でフォローアップを行っています。



バガハンガイ区支部委員会によるバヤンゴル区訪問(11月30日)

2022年11月にはバヤンウルギー県とバガハンガイ区支部委員会がウランバートルの関係機関を視察しました。他の区・県の優れた実践例を参考にしてみませんか。

幼稚園版 個別教育計画作成

2022年6月10日、教育科学大臣令A/206号において「幼稚園版個別教育計画」フォーマットと作成ガイドラインが発出されました。ガイドラインによれば、個別教育計画作成の目的は、「子ども1人ひとりのニーズに応じた支援を、保護者と連携しながら、計画的・継続的に行えるようにする」ことです。

今回は、新たに開始した幼稚園での個別教育計画作成のポイントをご紹介します。

作成の基本ステップ

1. 対象児の担任や園内委員会が、子どもの実態把握や観察記録の情報を基に、子どもひとり一人の発達の特徴、ニーズに適した目標、支援（手立て）を計画する。
2. それを個別教育計画に文言化し、実践・記録していく。
3. 園内委員会で共有、振り返りを行い、次の目標や手立てを計画する→1～3を繰り返す。

個別教育計画作成のポイント

認定のあるなしに関わらず、障害の疑いのある子どもや、活動への参加や学びに丁寧な支援が必要な子どもへの作成が推奨されています。

対象児のニーズに合わせて項目を変更して構いません。「社会性」だけに絞り、項目を増やしたり、必要なくなれば、削除したりしていきましょう。

高い目標にしすぎないように注意！「スモールステップ」思考で、着実に目指せることを記載しましょう。園内委員会や保護者の意見も参考にしましょう。

個別教育計画

作成年月日： 年 月 日
(○歳○ヶ月)

| 園児名 | 生年月日 | 年 月 日 | | | |
|---|---------|-------|----|------------------|----------|
| クラス名 | 担任 | | | | |
| 本人・保護者の願い | 担任の願い | | | | |
| 目的 | | | | | |
| 発達領域 | 期間 | 実態 | 目標 | 支援のポイント (手立て) | 発達の変化・記録 |
| 社会性 | 前期 | | | | |
| | 後期 | | | | |
| 運動・健康 | 前期 | | | | |
| | 後期 | | | | |
| 言葉 | 前期 | | | | |
| | 後期 | | | | |
| 日常生活 | 前期 | | | | |
| | 後期 | | | | |
| 美術 | 前期 | | | | |
| | 後期 | | | | |
| 結果 | (作成日：) | | | | |
| 記録した教員の氏名、署名： / / 日付 _____ | | | | | |
| 確認した親（保護者）の氏名、署名： / / 日付 _____ | | | | | |

入園時期は子どもによって異なります。対象児が入園したら、早い段階で作成しましょう。

- ①手立ては変わっていきます。周囲の同僚や外部の専門家の意見も参考にし、加筆していきましょう。
- ②クラスの計画とも連動させるような手立てを考えましょう。

「目標が達成できたか/できなかったか」だけでなく、子どもの成長や手立てと目標の振り返りを行い、次の目標・手立てへつなげましょう。



園児全員での合唱の様子

子どもの実態把握のポイント

入園前に保護者から子どもの生育歴や生活環境を聞き取る実態把握と、入園後に子どもの「今」を整理する実態把握の2つの方法があります。

●入園前：保護者との面談に加えて、「体験入園」の機会を設け、親子に来園してもらおうと、園長、指導教諭、担任が子どもの行動を観察する機会ができます。また、親子とも幼稚園の様子が事前に見られて安心できます。

●入園後：教員自身の書きやすいスタイルで、対象児の日々の観察記録を書いてみましょう。「今日のねらい」「対象児の様子」「次の手立て」を毎日記録し続けると、対象児にはどのような手助けが必要で、どんな方法があるか、徐々に判断できるようになり、個別教育計画をスムーズに作成するための準備になります。

気になる子どもの実態把握-読みが苦手な子ども-

皆さんの学級には、診断はついていないし知的な遅れはないけれども、読み書きや計算が苦手なお子さんがいませんか。そのようなお子さんは、もしかしたら字の見え方がほかの人と違ったり、聞いたことを記憶しておくことが難しいために、学習の遅れが出てきているのかもしれない。

授業を受ける際に必要な能力とは？

授業中、子どもたちは様々な能力を駆使しています。これを認知といいます。例えば、以下のような認知が必要になります。

- ◆ 教員の話に注意深く聞く ← **注意**
- ◆ 教員の言ったことを一時的に記憶しノートに書く ← **聴覚的短期記憶**
- ◆ 文字のつながりを見てひとつずつの形を見分ける ← **視空間認知**
- ◆ 黒板に書かれた文字を目に留めて書き写す ← **視覚的短期記憶**



これらの認知の中に苦手なものがある場合は、何度練習しても読み書きが上達しなかったり、計算ができないままになってしまいます。周囲から、「がんばればできる」「努力が足りない」「勉強不足」と思われることも多く、子ども本人の自信も低下してしまいます。教員が、その子の苦手な認知能力を把握し、指導方法や勉強方法を工夫することで進歩がみられることがあります。今日は「読み」が苦手なお子さんの認知の特性と指導の工夫を紹介します。

文字を飛ばして読んだり、間違っ読んだりする子どもの認知の特性

文章を音読するときに、文字を飛ばして読んだり、単語を間違っ読んだり、長母音や、ヤ、ヨ、イエの入った音節を正しい発音で読むことができないお子さんの場合、以下の認知能力の特性が考えられます。

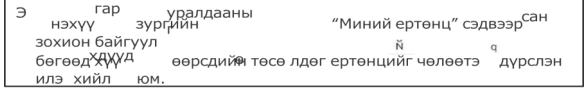
- ◆ **一つひとつの文字に注意を向ける力(注意)**：単語を構成する文字一つひとつに注意が向けられなければ、正しい発音ができません。
- ◆ **形を判断する力(視覚認知)**：似ている文字を見分ける視覚認知が弱いと、間違っ発音になります。特に筆記体で書かれた単語は文字と文字の境目が判別しにくいので、視覚認知が弱い場合は読みに困難を生じやすくなります。

ㄣ ↔ ㄣ ㄣ ↔ ㄣ 文字と文字の境目を間違えて認識してしまい、発音を誤ってしまう。

- ◆ **音を聞き分ける力(聴覚認知)**：似ている音を聞き分けることが難しい子どもは、文字を読み書きする際に、間違っ読んだり書いたりすることがあります。

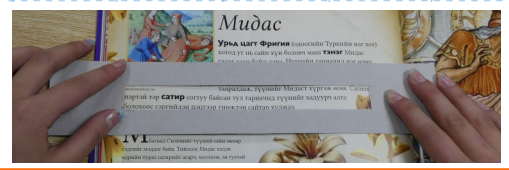
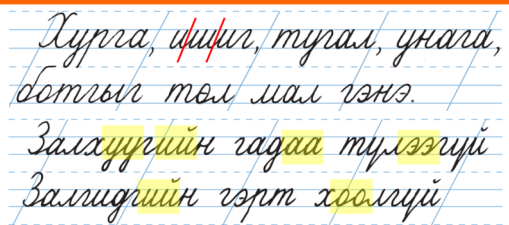
g ↔ m ʒ ↔ ʒ 似ている音を聞き分けられず、文字の形と発音を間違えて覚えてしまう。

- ◆ **読んでいる部分を目で追うことができていない(視線の動きの問題)**：読み上げている部分を目で追うことが難しく、別の単語に目移ってしまうという視線の動きのぎこちなさが原因となる場合もあります。下の図のように文字が反対に見えたり文章がまっすぐに見えない子どももいます。



読みに課題のある子どもへの指導法

- ◆ 読み間違いが起りやすい単語だけを取り出して、正しく、すばやく読めるように練習をする。
- ◆ 読みにくい部分や大切な単語を色ペンでマークしたり線を引いたりして、気づかせる。
- ◆ 黒板を写すのが難しい子どもには、黒板に書く内容を前もって紙に書いて渡す。
- ◆ 定規をあてて、読んでいるところ以外の情報が入らないようにする。
- ◆ すべての文字の入った絵カードを1枚ずつ見せ、一緒に発音する。
- ◆ 長母音や、ヤ、ヨ、イエなど、読みにくい部分に印をつける。



モニタリング対象校の好事例を紹介します

プロジェクトでは2021年5月から2022年6月にかけて、ウランバートル9区の25校をモニタリング対象校とし、インクルーシブ教育の普及活動を実施しました。その中から、インクルーシブ教育の好事例として、“補助具の設置”、“読み書きの支援”、“個別教育計画 (IEP) 作成による教員の変化”についてご紹介します。

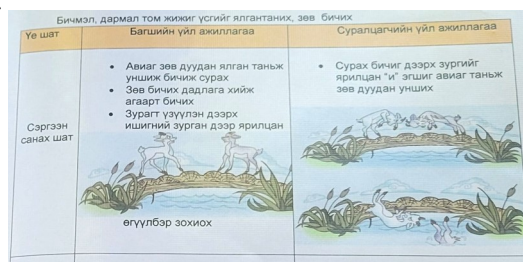
補助具の設置：子どものより良い活動の確保

低学年の子どもが洗面台を使いやすくするための台や、教室の段差をなくするためのスロープを作成するなど、ユニバーサルデザインの考えに沿った環境が整備されました。洗面台の前に台を置いたことによって、子どもは手元を見ることができ、しっかりと手を洗えるだけでなく、袖口を濡らすことも減りました。また、教室の入口の段差を解消する、簡易スロープを設置したことで、足が不自由な子どもが移動しやすくなっただけでなく、段差でつまずくことが減るなど、様々な良いことが報告されました。(バヤンゴル区オユニーウンドラ校)



読み書きの支援：読みに対する自信の向上と読みの能力の改善

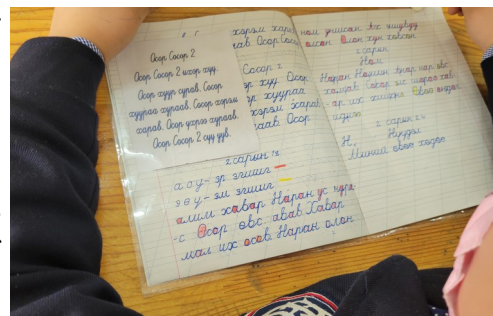
プロジェクトが実施した研修で、モンゴル語の授業の際、写真やイラストを多く使った教材は子どもたちの理解を促すと伝えました。それを受け、スフバートル区第6学校では、「文字と絵を組み合わせた読み教材」を独自に作成しました。読みが難しい子どもに対して、この教材を用いて指導したところ、自信を持って大きな声で読むことができるようになりました。またこの年に入学した1年生は、新型コロナウイルスの影響で2年ほど幼稚園に通うことができず、基礎的学力が十分に身につけていない子どもが多くいました。そこで、この文字だけでなく絵を多用した誰もが理解しやすい教材を用いたところ、子どもたちの読みの能力が向上しました。その結果、絵を多用した教材で勉強した1年生と、そのような教材を使用しなかった2年生の読み能力の平均を比較したところ、1年生の成績の方が高いという結果になりました。



個別教育計画 (IEP) 作成による教員の変化：教員、子ども、保護者の様々な変化

バヤンズルフ区第79学校では、個別教育計画を用いることで、教員の意識が改善したという報告を受けました。どのような変化があったのか見てみましょう。

- ◇ IEPがなかったときは対象児のことを忘れることもあったが、作成することで、その子に対してどのような指導をするかを考えるようになった。具体的な事例として、大勢で学ぶことが苦手だった子どもがいたが、教員と1対1でかかわることがきっかけで、やる気もち、教員と一緒に勉強したいと思うようになった。
- ◇ 以前と比べ、IEP対象児だけでなく、他の支援が必要な子どもに対しても意識が向くようになった。
- ◇ 以前よりも子どものことを理解したいと思うようになった。何が原因で、何ができる・できないかを考えるようになり、教員が意識を高くもって指導するようになった。そうすると、子どもがそれを感じ、やる気をもって勉強に取り組むようになり、教員と子どもの関係性が良くなった。
- ◇ 保護者にIEPを作成することを提案したところ、最初は否定的であった。しかし、IEPに沿ってわかりやすい指導をすると、子どもの理解が向上し、自信を持つようになった。子どもが楽しく勉強をするようになったら、保護者の指導に対する印象も改善し、教員・保護者・子どもが一体となる感じを受けるようになった。



モンゴル国 ウランバートル市 スフバートル区 第1ホロー Avzaga trade building 505号室



<https://www.facebook.com/JICA.START.2>



<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/029/index.html>



jicastart2@gmail.com



+976-80486690
+976-95937356

